

石上寺(星河山千手院) (せきじょうじ)

熊谷市鎌倉町 所在

正面は山門



喪中の張り紙がしてあった(岡安住職の話では御母堂が亡くなられたとのことであった)/左手は調査隊の車



正面が再建された本堂/木造/鶺鴒工舎(いかるがこうしゃ)の設計施工



左手の大木は「熊谷桜」であるが折角の本堂屋根が隠れてしまっている



右手は調査隊の車



平成22年10月、現代の名工にも選ばれた宮大工の小川三夫棟梁によって再建された



柱間は中央が広がっていた



唐招提寺の「吹き放ち」をイメージしているという



岡安住職の話では木材はカナダ産のヒノキを使っているのだから見た目が少し黄色いのだという





新編武蔵風土記稿に石上寺の縁起が載っており、寛文11年(1671)僧榮光が創建したという



新編武蔵風土記稿によれば石上寺は当時、埼玉郡上之村の一乗院の末寺であったというが何と一乗院は以前調査した諏訪木遺跡のすぐ近くの熊谷市上之にある真言宗智山派寺院である(諏訪木遺跡見学報告書参照のこと)

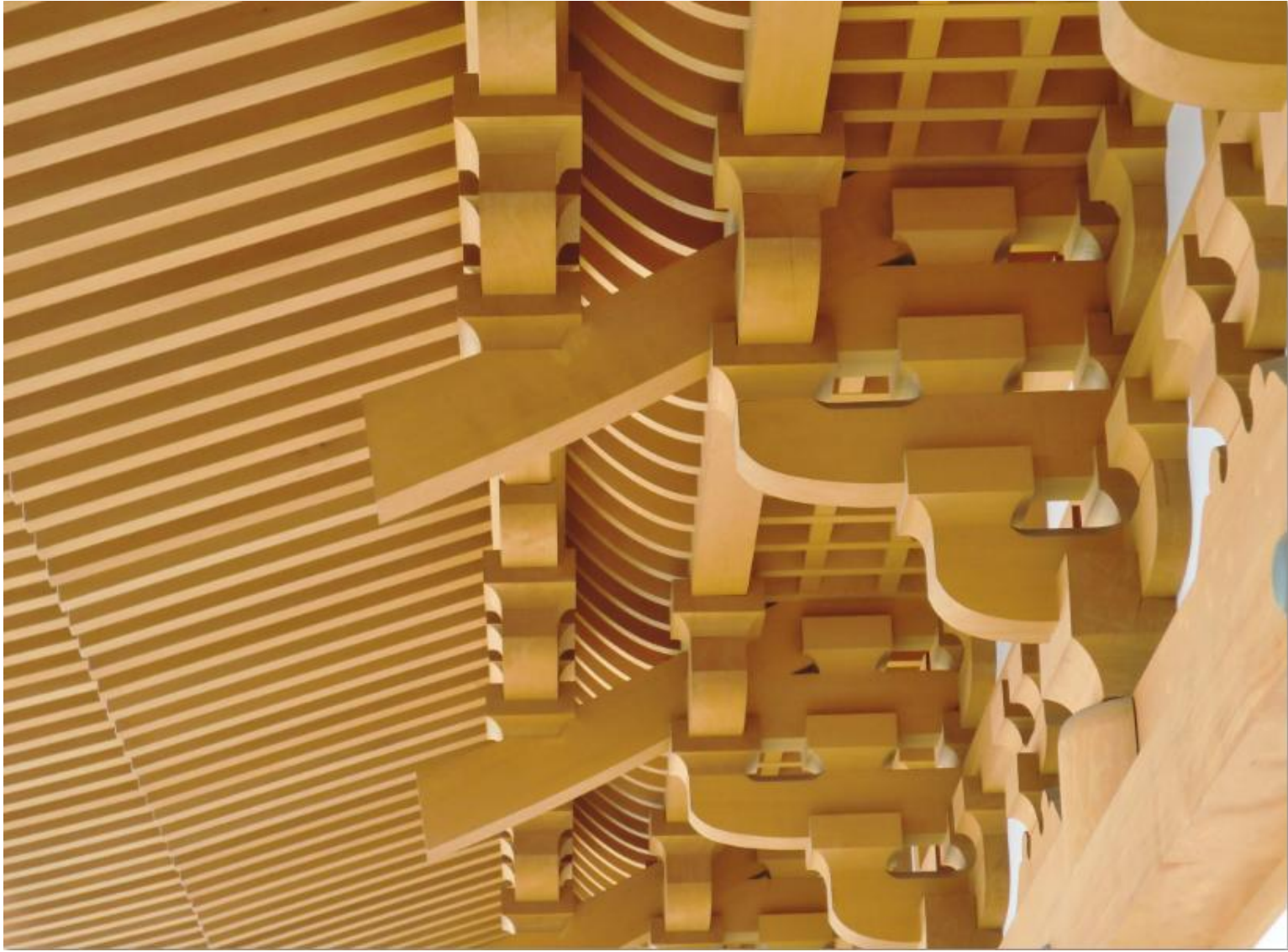






組物はスタンダードな三手先斗拱の和様となっている



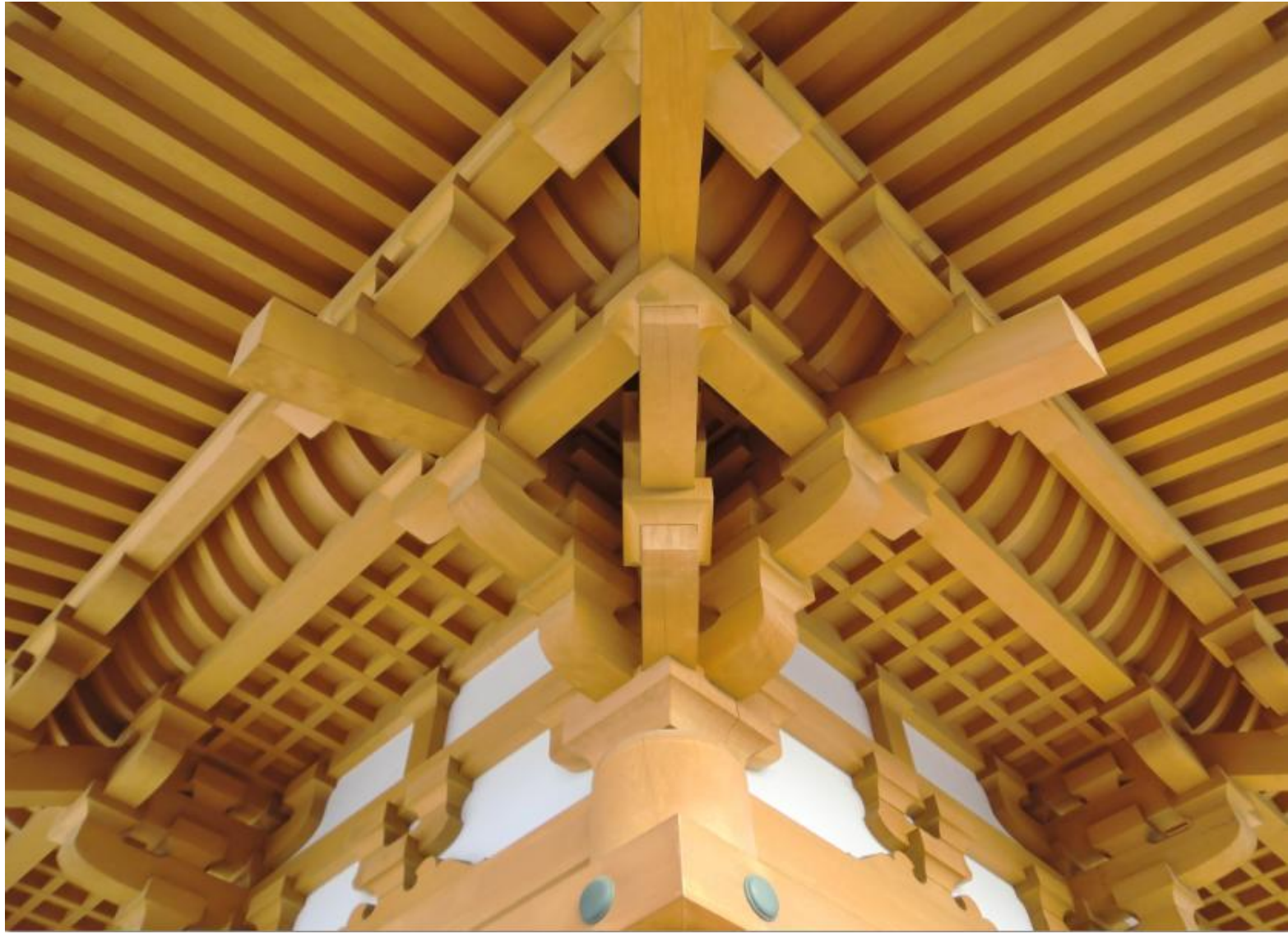


岡安住職の話では鵜工舎の小川三夫棟梁は腰痛のため、工事は主にその弟子達が行ったという





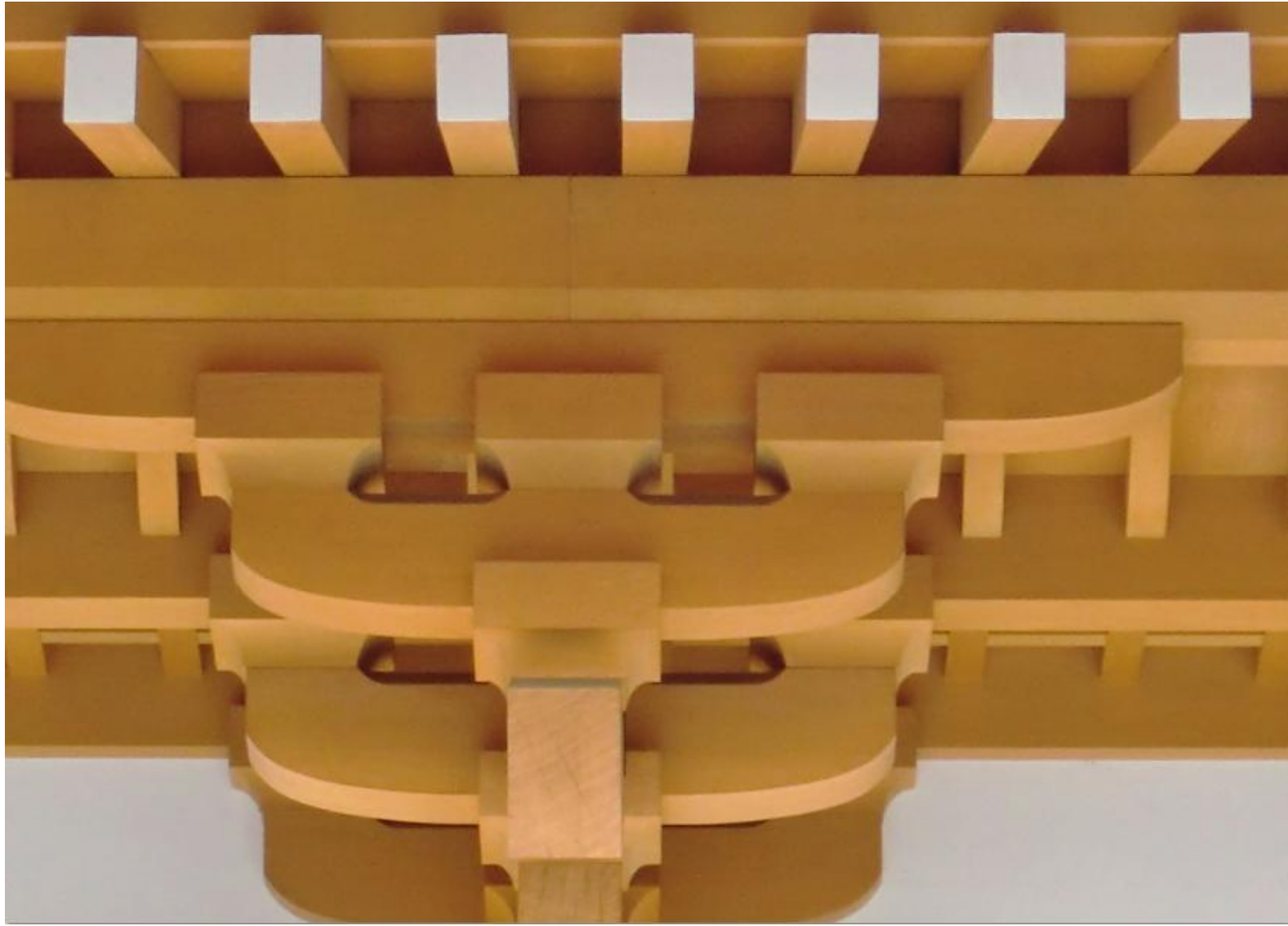






























屋根は法隆寺金堂をモデルとしているとのこと、軒の線はゆったりとしている/棟高はそそりたっており、その分、屋根勾配は急激になっている/ライトアップする設備も整っており「小川三夫」ブランドを「売り」にした寺院ということになるのだろう













軒の出は十分であったが、屋根と軸部の比例、縦の柱と横の材の太さの比例やそれによってできる矩形の比例やバランスはどうか









鴟尾(しび)には、岡安住職が反戦の思いを込めて詠んだ漢詩が刻まれているという







例によって数々の石造物があった











芭蕉の句碑



熊谷市鎌倉町 石上寺(せきじょう)
明治三十五年(1902)三月建立 八十叟晋永機
しはらくは 花の上なる 月夜哉
元々は旧熊谷堤(北条堤)の上に建っていたのだが、
石上寺へ移築したのだという。熊谷堤とは荒川の
左岸堤防の通称であり、石上寺の本堂も熊谷堤に
建つ。桜の花の名所でもある。高さ145cm、幅85cm

インターネットより

次のページはこの句碑の写真である

芭蕉の句碑



鐘楼





石上寺不動堂



参考ホームページ

http://www.tesshow.jp/saitama/kumagaya/temple_kamakura_sekizan.html

<http://www.saitama-e.com/modules/news/article.php?storyid=783>

http://www.saitama-np.co.jp/f_mailmag/kumagaya/saitama-np/1106/110509_f01.html



